

# 利水及び環境に関する現状 (大臣管理区間)

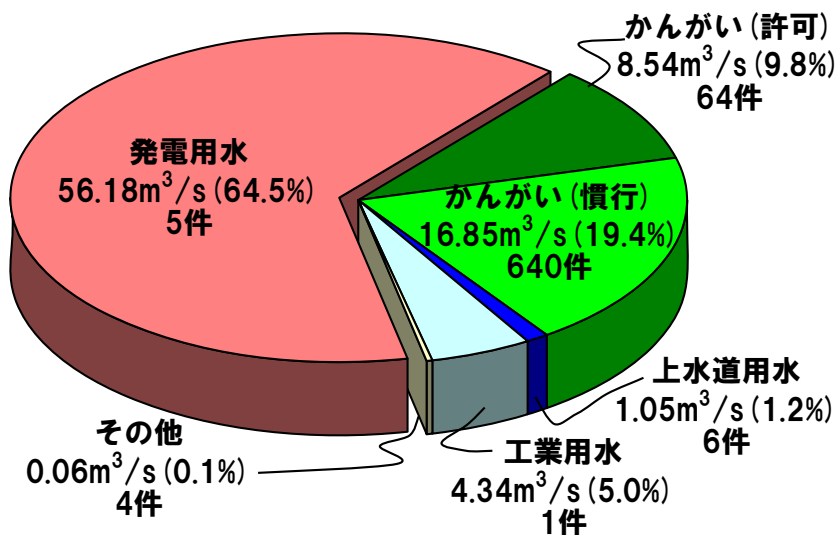
- I. 利水に関する現状
- II. 河川環境に関する現状

平成20年5月14日

国土交通省 東北地方整備局

# 1. 水利用の現状

- 大正初期に水力発電への利用が始まって以降、その利用量は増え、最大取水量は56.18m<sup>3</sup>/sにも及ぶ。（総最大出力約6,960kW）
- 約4,800haに及ぶ耕地の農業用水として利用されているほか、八戸市及び周辺地域に対する上水道や八戸工業地帯への工業用水源として利用されており、流域住民の生活基盤の形成に寄与してきた。



目的	件数	最大取水量 (m <sup>3</sup> /s)	
かんがい	704	25.384	
	許可	64	8.536
	慣行	640	16.848
上水道	6	1.0492	
工業用水	1	4.3400	
その他	4	0.0640	
発電	5	56.183	
合計	720	87.020	



**【小中島発電所取水口】**  
 ・昭和31年～  
 ・最大取水量29.0m<sup>3</sup>/s



**【舌崎発電所取水口】**  
 ・大正12年～  
 ・最大取水量16.66m<sup>3</sup>/s



## 2. 渇水の現状

- ・ 昭和48年の渇水時には、農業用水不足となり水田での亀裂が生じたほか、八戸市で1万戸が断水するなど大きな被害が発生した。
- ・ 近年では、大きな渇水被害は発生していない。

### 主要渇水における被害状況

主要渇水年	施設等	被害状況
昭和48年7月	対策会議等の設置状況	八戸市水道部は、「給水対策本部」を設置(7/16) 八戸市で「異常渇水対策本部」を設置(7/19) 馬淵川流域の水利権関係者を集め「緊急水利調整協議会」を開催(7/19) 八戸市で「農業用水不足に伴う緊急対策会議」を開催(7/19)
	農業用水 城下揚水機外 5施設	平均30%の減量 水田被害(用水不足2,370ha、亀裂12ha) 畑被害(りんご2,300ha、畑作物370ha、飼料作物3,460ha、その他420ha)
	上水道	八戸市水道断水(高台中心に約10,000世帯に影響)(7/15)
	工業用水道	パルプ工場操業停止(7/18~19)
昭和53年8月	情報	渇水情報・水質注意報(8/7)
平成6年7月	上水道	八戸圏域水道企業団で「渇水対策協議会」を開催(7/27)

「予告なし」に大あわて  
最高気温の八戸  
水道の消費、一挙三倍  
ついに一万戸断水

S48.7.15 デーリー東北

八戸の水不足  
一段と深刻化  
当面は節水以外に...  
給水対策本部を設置

S48.7.17 デーリー東北

八戸の水不足  
工業用水もピンチ  
関係者、沈痛な面持ち  
稲が死んでしま  
慈雨祈る十和田地

S48.7.18 デーリー東北

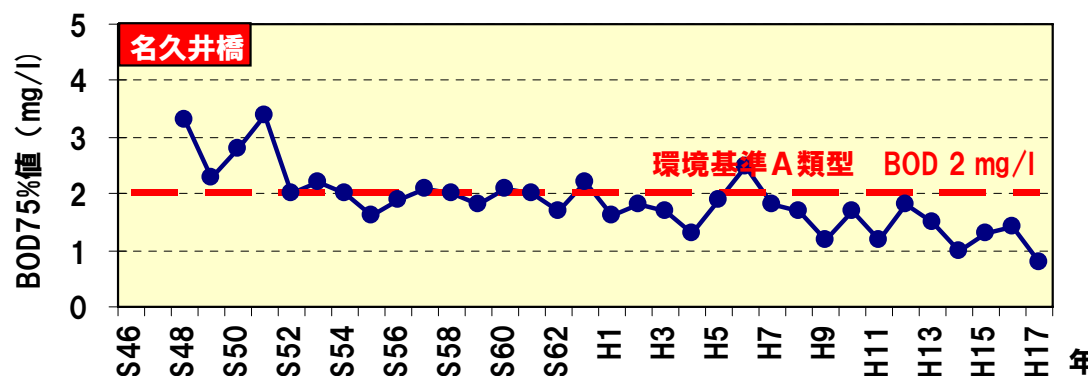
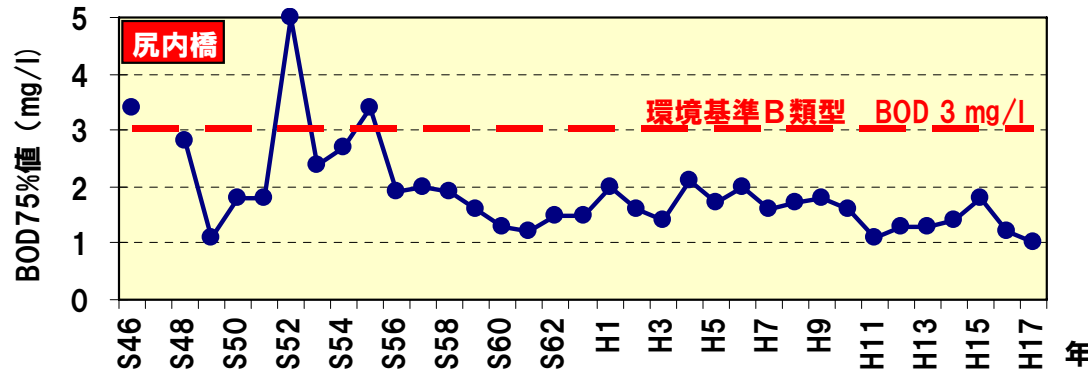
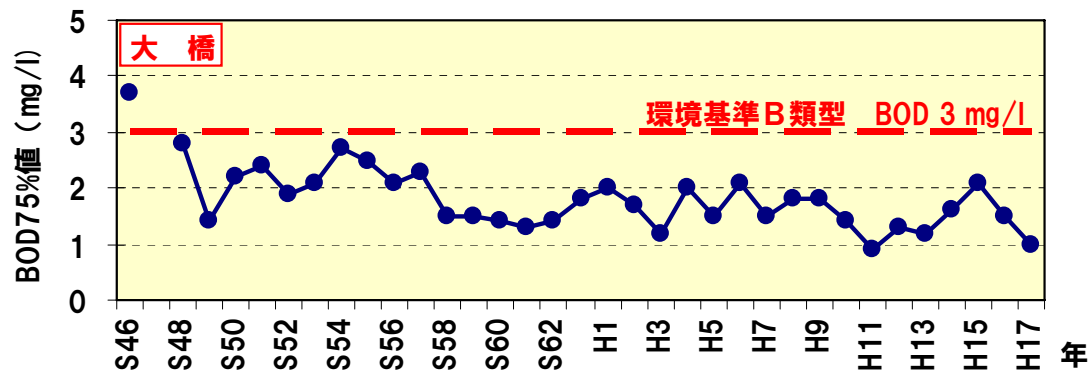
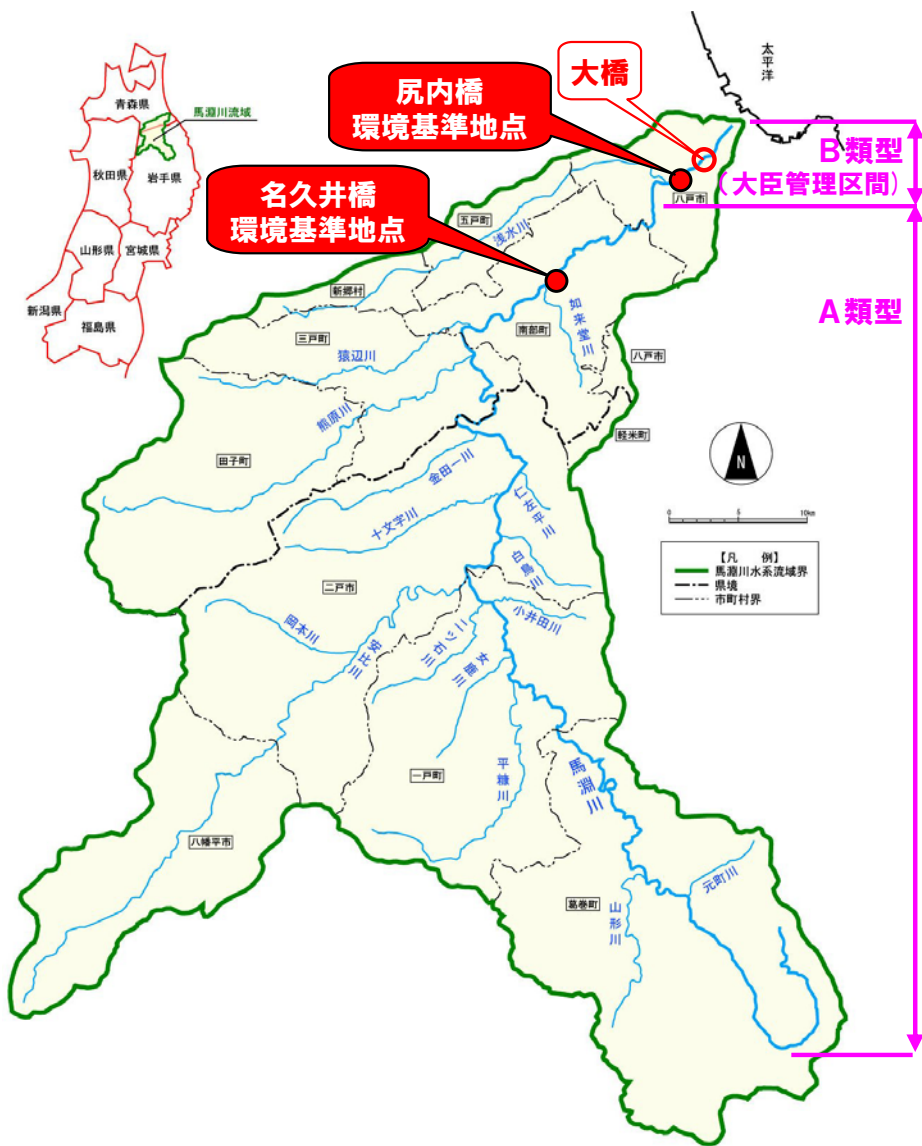
青森県内 雨不足で影響ジワリ  
各地で番水制に入る  
初の渇水対策協議会

H6.7.28 デーリー東北



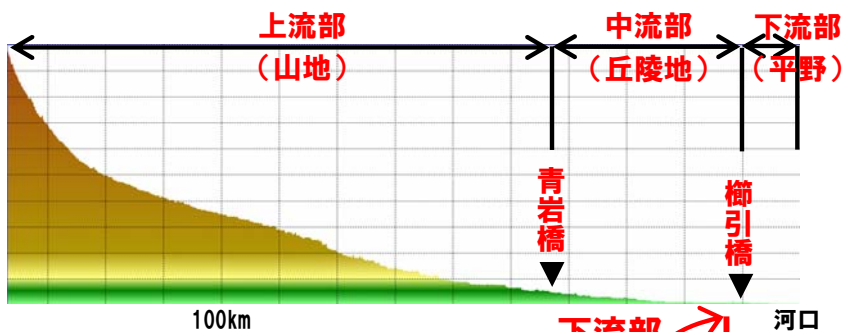
# 4. 水質の現状

・馬淵川の水質については、概ね環境基準を満足している。



# 1. 自然環境の現状

・馬淵川流域は、豊かな自然環境を有している。



【河川縦断模式図】



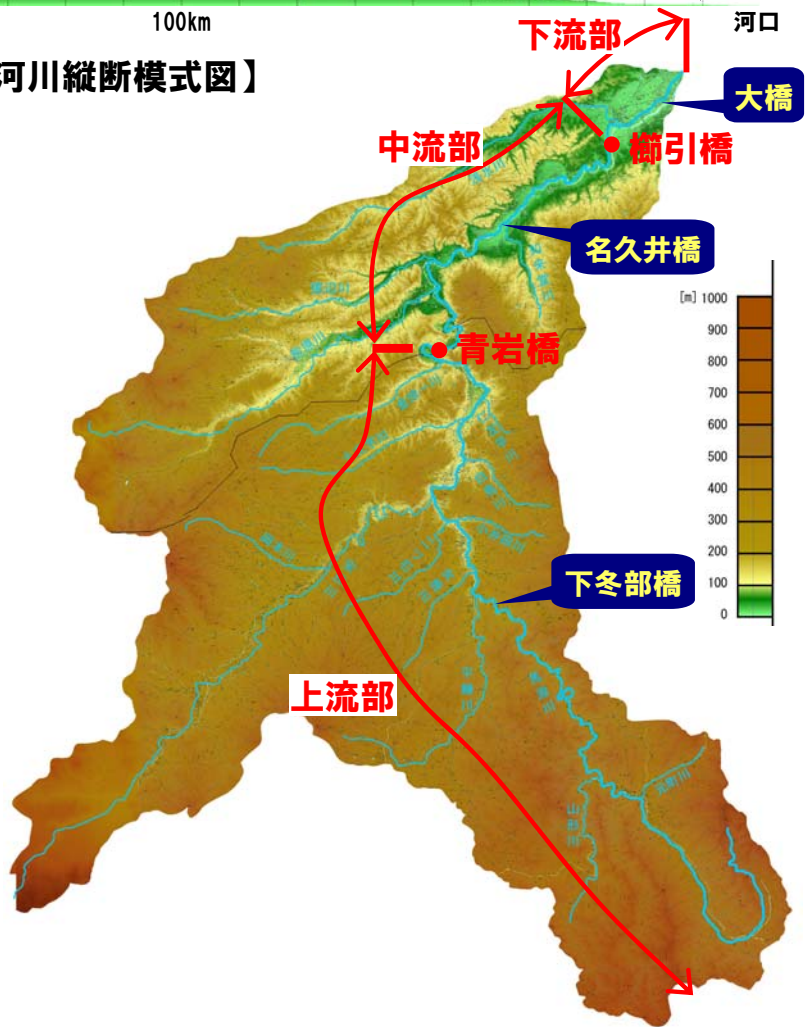
**【下流部】河床勾配1/2, 100程度**  
 ・沖積平野を流下  
 ・ヤナギ類、オニグルミを中心とした河畔林が形成  
 ・河口付近では水際にマコモ、ガマ、ヨシなどの抽水植物が繁茂  
 ・ゲンゴロウ、ミズカマキリ等の水生昆虫、タナゴ、シロウオ、イトヨ、スナヤツメ等の貴重な魚類が生息



**【中流部】河床勾配1/580~2, 100程度**  
 ・川幅が狭く、河岸段丘の低面を流下  
 ・名久井岳県立自然公園に指定  
 ・ヤナギ、ケヤキ等の河畔林が形成  
 ・アユ、ヤマメ、ウグイ等の清冽な水を好む種が多く見られる  
 ・産卵のために遡上してきたサケやサクラマスも生息



**【上流部】河床勾配1/170~580程度**  
 ・大部分が山間地を流下  
 ・十和田八幡平国立公園、折爪馬仙峡県立自然公園、久慈平庭県立自然公園が点在  
 ・河川の周辺にはケヤキ、コナラ等の落葉樹林  
 ・ヤナギ、オニグルミ等の河畔林・溪流の様相を呈しており、ヤマメ、イワナが生息

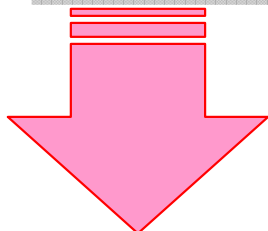


## 2. 動植物生息の現状

・馬淵川では、重要種をはじめとする多様な動植物の生息・生育が確認されている。

### ◆6項目について調査

- ①魚介類調査
- ②底生動物調査
- ③植物調査
- ④鳥類調査、
- ⑤両生類・爬虫類・哺乳類調査
- ⑥陸上昆虫类等調査



河川水辺の国勢調査等の調査結果をもとに、レッドデータブック・レッドリスト（環境省）掲載種、天然記念物指定種等の学術上又は希少性の観点から重要種を抽出。

河川環境に関する情報の収集・整備を実施  
（河川水辺の国勢調査の実施・継続）



イトヨ



タナゴ

出典：青森県水産総合研究センター内水面研究所HP

### 馬淵川の重要種 ※出典：馬淵川水系河川整備基本方針河川環境検討シート

重要種一覧		
植物	ミクリ ノダイオウ	ミズアオイ アギナシ
魚介類	チチブ スナヤツメ シロウオ ギバチ メダカ	タナゴ イトヨ ウツセミガジカ ハナカジカ
底生動物	ゲンゴロウ マルタニシ オナガサナエ	コウイムシ ハグロトンボ コヤマトンボ
鳥類	カンムリカイツブリ オカヨシガモ コアジサシ チュウサギ シマアオジ オオタカ チュウヒ カワウ	セグロセキレイ オオジュリン ミサゴ チョウゲンボウ イカルチドリ ハヤブサ オシドリ
両生類・爬虫類・哺乳類	ヒナコウモリ	
陸上昆虫類	ヒメシロチョウ ハラビロトンボ ヒメウラベニエダシャク ミヤマサナエ オナガサナエ	ショウジョウトンボ ババヒメテントウ キボシトックリバチ コヤマトンボ ゲンジボタル

#### 【重要種の抽出基準】

- 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律により指定された国内希少野生動物
- 環境省（2000ほか）「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」並びにレッドリストで選定されている種
- 青森県（2000）「青森県の希少な野生動植物—青森県レッドデータブック—」で選定されている種
- 岩手県（2001）「岩手県の希少な野生動植物—岩手県レッドデータブック—」で選定されている種

### 3. 外来種の現状

- 馬淵川では、外来生物として、オオブタクサやアレチウリなどの植物、タイリクバラタナゴやブラックバス（オオクチバス）などの魚類が確認されている。

#### ○馬淵川で確認された外来種（植物）



- 外来植物が優占する群落として4群落を確認
- 外来種群落の面積は前回調査に比べ減少
- 外来種は、在来種が優占する群落にも、主な構成種として入り込んでおり、生体量はむしろ増加している可能性あり

#### ○馬淵川で確認された外来種（魚類）

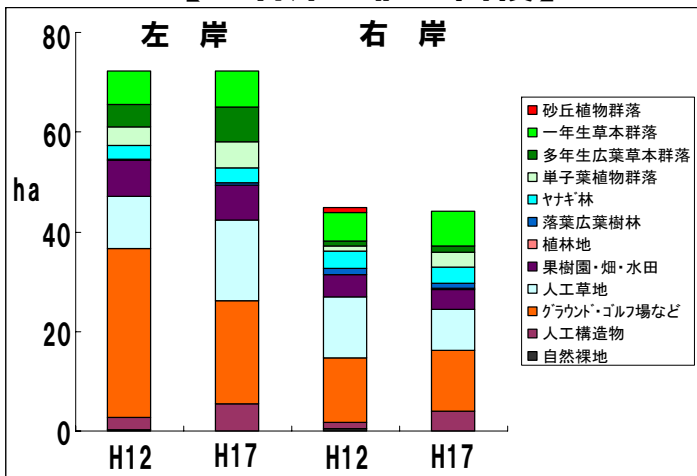


【タイリクバラタナゴ】  
外来生物法で要注意外来生物に指定

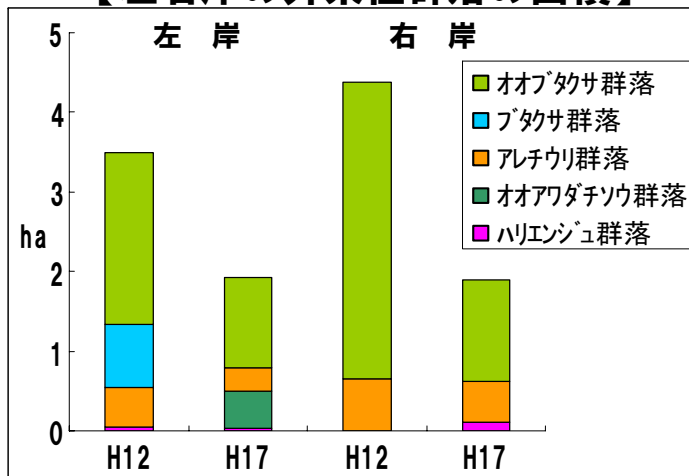


【オオクチバス】  
沖縄を除く全都道府県で移殖放流禁止措置（内水面漁業調整規則）

【左右岸の植生面積】



【左右岸の外来種群落の面積】



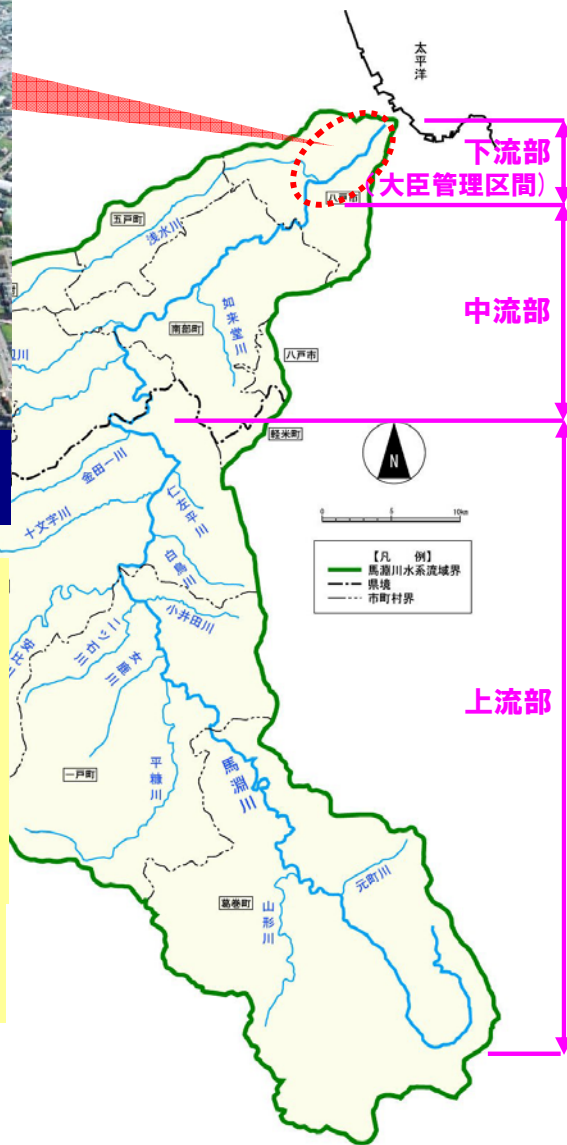


## 4. 河川利用の現状

- ・八戸市街地を貫流し、自然が多く、貴重な水と緑のオープンスペースとして、多くの人に利用されている。高水敷に整備された河川公園では、各種イベントを中心にスポーツ、釣り、散策など多様な河川利用・活動がなされている。

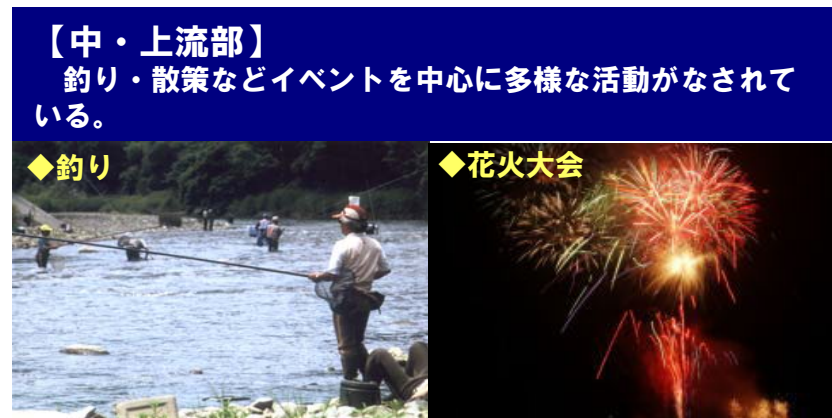


市街地と河川が近く、地域住民の日常生活と密着した生活空間の一部をなしている



【下流部】  
 整備された高水敷の河川公園・運動場を中心にスポーツ・散策など多様な活動がなされている

◆野球大会



◆釣り

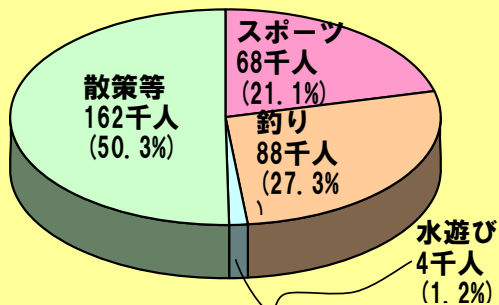
◆花火大会



◆清流下り



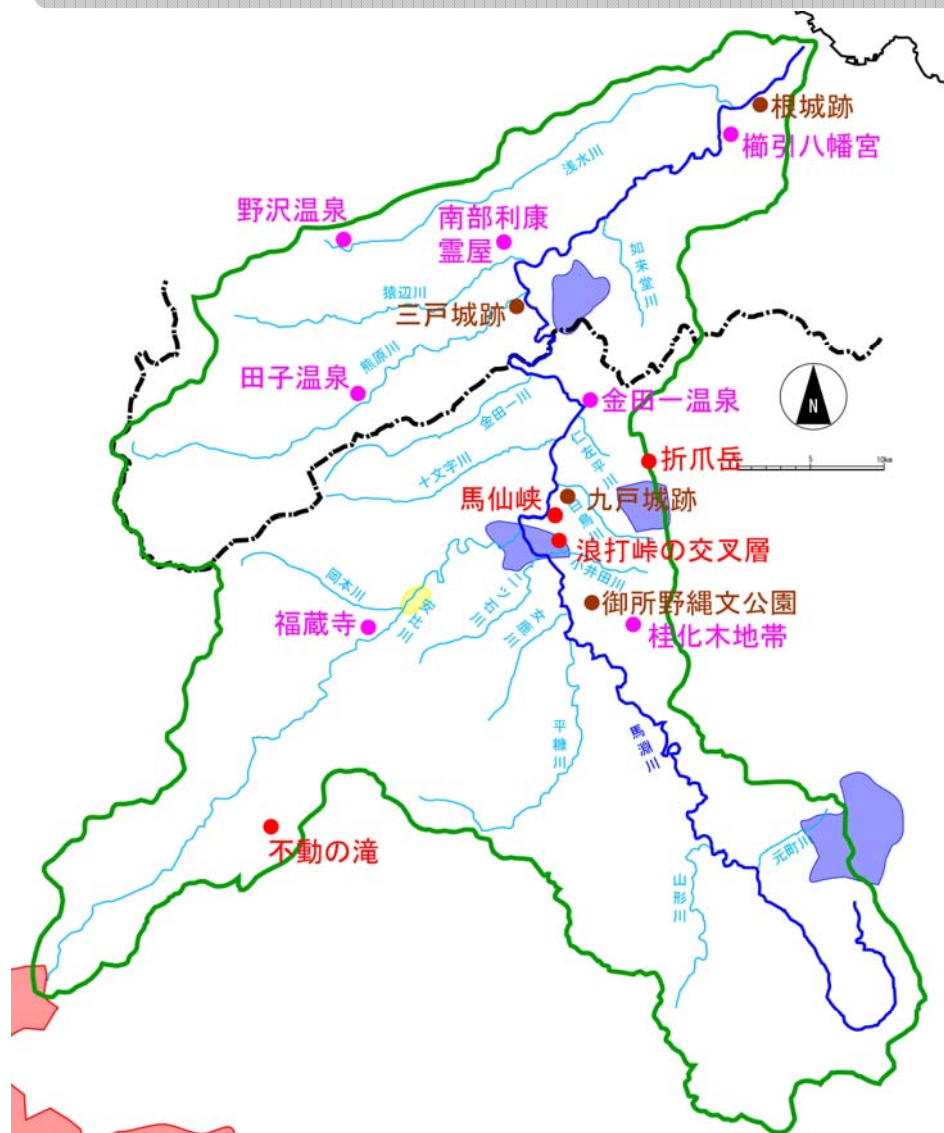
◆源流まつり



河川空間利用者数 (32万1千人)  
 [平成15年 河川空間利用実態調査]

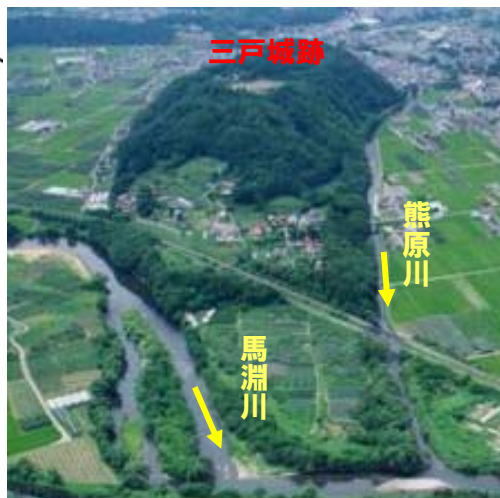
## 5. 河川景観の現状

・馬淵川沿川は河川景観にも優れ、貴重な名所・史跡も多く点在する。



凡例 (文化財)  
 ● 名勝  
 ● 史跡等  
 ● その他

凡例 (植生)  
 ● 県立自然公園  
 ● 自然環境保全地域  
 ● 国立公園



【三戸城跡】  
 城山公園となっており、青森県有数の桜の名所



【根城跡】  
 1994年から史跡公園として整備、本丸等が復元



【不動の滝】  
 日本の滝百選にも選出されている名所



【馬仙峡】  
 県立折爪馬仙峡自然公園に指定された岩手県有数の景勝地